

# 中田かわら版 2月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会  
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所  
横浜市踊場地域ケアプラザ

## ■ この人に会いたい < 1 2 >

### 書家・清水眞司さん(78歳)

昨年 9 月、横浜・桜木町「ゴールデンギャラリー」で清水六穂書作品展があった。清水眞司、号は六穂。<sup>りくすい</sup>「嘉穀六穂」からとった大変めでたい号なのだ。清水さんは「篆刻」の世界では篆刻作家として夙に著名である。毎日新聞書道展審査会員、同運営委員・会員賞選考委員、甲戌印會代表。神奈川県美術展・神奈川シニア展審査委員、川崎市書道連盟会長（現顧問）、高等学校芸術家書道教科書（中教出版）編者などの肩書を持つ。



作品と清水六穂さん

初の個展では 20 代から始めた書道の作品から最新作まで篆刻、書、刻字などおよそ 120 点を出陳した。内容もその時、その時の自分が出せたものを厳選した。その意味では、半世紀に及ぶ創作意欲が見事、結実した個展だったと思う。

1936 年、山梨県北杜市生まれ。双葉自治会在住。保多孝三、荒井碧堂、鈴木知秋氏らに師事。川崎市の小・中・高校の教壇にも立った。山梨県芸術祭（第 5 席）、川崎市文化協会賞、毎日書道展特選など数々受賞している。

清水さんが篆刻を始めたのは 40 代。書の分野に「篆刻」というものがあるのを知った時、これが将来自分が目指すものと予感したという。『方寸の宇宙』と言われる篆刻の魅力に取りつかれ、のめり込んでいったと自ら語っている。一寸（約 3 センチ）四方の空間に書的・絵画的・彫刻的要素を盛り込んだ東洋独特の素晴らしい総合芸術なのだ。「どんな時でも刀（印刀）を持ち石に向かうと落ち着いた気持ちになれる」。多くの師から篆刻の鍛錬の重要さや素晴らしさを学んだ。



清水さんの作品

「文字」の話になると時間のたつのも忘れ、話は尽きない。文字にはきれいな字、いい字とがある。その違いとは何か。新聞、雑誌に使われるいわゆる活字文字はタテヨコの線は直線であり、洗練された曲線だ。スペーシング（字間）も何ミリ単位の精密さが求められる。字形は統一され、誰でも読める文字でなくてはならない。きれいなことが最大要素だ。一方、いい字とは毛筆の場合一本の線にも太さ、細さが異なる。墨の濃淡、紙質によっても違いがあり、そ

れぞれ個性的である。文字の形に規格はなく、10 人 10 色、いろいろ違った面白さがある。

「篆刻」の余白についての話も印象的であった。方寸の中に文字を刻んでできる余白は、実は余白ではなく重要な部分。感性の問題なので言葉で表現するのは難しいが、しいて言えば「余白は余った分ではなく、文字以外の必要とするあまりの部分」なのである。糸のような細い線に精神を集中させ、出来上がったものに「気脈」や書としての筆意と美しさ、生命感もなければならない。それがなければ単なる彫り物でしかない。「刻るのは 30 分もあればできる。刀を持つまでの構想、準備にその何倍もの時間を費やす」。清水さんの作品には気脈があり、明るさ躍動感に満ちていた。

（編集委員 宮田貞夫）

～一人ひとりが CO<sub>2</sub> を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

# 3月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

## 【中田コミュニティハウスまつり】

日時：3月1日(土) 9:00~17:00

3月2日(日) 9:00~14:30

場所：中田コミュニティハウス

利用者団体が1年間の練習の成果である絵や工芸品などの作品展示、実演を披露するコミュニティハウスの総合文化祭



## 【さくらまつり】

日時：平成26年3月30日(日)

10:00~15:00

場所：中田小学校  
グラウンド

主催：中田小学校  
同窓会



## 『ふるさと中田』第1号の思い出

中田連合自治会が10年ごとに発行している『ふるさと中田』は、平成19年の40周年に4号が発行された。中田地区内の全自治会が参加して書かれており、今では貴重な資料となっている。

この『ふるさと中田』の表紙タイトルを1号から書いているのが、今回紹介している清水眞司氏、その人である（2号は金子精一氏）。

中田連合自治会創立は昭和42年（1967年）で会長・小山俊雄氏が46年まで務めている。10周年を迎えた52年当時は会長に奥津喬雄氏、総務に山口寅蔵、鈴木正太、清水眞司氏らが名を連ねている。10周年記念誌の奥付をみると編集委員代表（編集長）に山口寅蔵、編集委員は福岡正夫、宮本忠直氏ら7人。このうち自治会の役員以外から編集スタッフとして私や福岡、宮本、小島貞雄氏らが参画している。



「ふるさと中田」の題字

記念誌第1号の編集方針は失われつつある貴重な古い写真を一般からできるだけ多く集めて載せることであった。厳選し収録した写真98枚、その他、地図、統計、賞状など4点。これら提供者は個人17人。小学校、農協など6団体からの協力があった。

その年の12月4日、発行慰労会が「寿司長」（中下）で行われ、出席したメンバーは奥津会長以下、山口寅蔵、鈴木正太、石川達郎、福岡正夫、小島貞雄、清水眞司、宮本忠直、宮田貞夫ら9人であった（敬称略）。

（宮田）

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。[www.odoriba-cp.jp](http://www.odoriba-cp.jp)へアクセス！！